

軒昂会

軒昂会会報 第13号
 発行者 日原 雄
 編集者 田村千秋
 発行日 平成12年4月
 発行 年3回発行
 http://www.d1.dion.ne.jp/~kekokai/index.htm

会報は年3回を予定しています。皆様の原稿お待ちしております。頂いた方にはお礼を差し上げます。原稿の送り先 秦野市渋沢 3-2-7 〒259-1322 FAX:0463-88-2967 E-Mail: c-tamura@bd5.so-net.ne.jp 田村千秋

平成十一年度総会兼 新年会開催

日時：平成十一年一月十六日
 出席者：四十一名

議題
 一 軒昂会継続の件 (株アマタメ トレックスと(株)アマダ合併に鑑み)

尚、総会不参加者四十五名の内十三名継続賛成、廃止二名、他返事無し継続の条件：旧(株)アマタメトレックス従業員のみで継続する

二 平成十一年度新会員の紹介
 池田・阿部・加藤・大村

三 役員改選
 会長 日原
 副会長 郡山
 副会長 西牧
 運営委員 川野
 委員 田村
 委員 本間
 委員 野呂
 委員 小泉(補佐 田村)

会計 中山(寛)
 監査 兼若

四 会計報告
 平成10年度繰越金 五十九万三千八百八円
 平成11年度繰越金 四万二千四百四十二円
 平成11年度収入 一万八千円
 入会金九人
 平成11年度支出 四万二千四百四十二円
 平成12年度繰越金 四十二万九千六百三十一円
 上記のように報告します。

平成十二年一月十六日
 軒昂会会計 田村千秋
 会計監査の結果異常ありません
 監査役 野呂利長



総会に出席された方々

シルクロード

今回からいよいよ中央アジアの中国側、ウイグル自治区に入ります。ウイグル自治区についてはタクラマカン砂漠を抜いて語ることはできません。丁度滋賀県と琵琶湖の地形を思い浮かべて下さい。

漢、蒙古、ウズベク、カザフ、タジク、ロシア、満州、タタール、ウズベク、ダフルの十二民族 固有の言語文字を持つた三百万人満州宗教はほとんどがイスラム教、気候は年間雨量数十ミリ、平均年収七、八万円本当の時は二、三時間くらいでいるため北京時間に統一しているため日没が九、十時、国語は小学六年ごろから北京語の教科があります。

タクラマカン砂漠 不生(選砂漠)

ウイグル自治区の中央に位置し日本本土三倍以上の面積、南にコンゴ山脈、北に天山脈の六千メートル級の万年雪と巨大水河群を有した連山からは夏期になると雪解大河(利根川の数十倍の川)が何十本となく砂漠に流入し消えていく途中巨大湖を作り又消えていく。井上靖の言う「さまよえる湖」そのものです。その水は風が運んだ黄砂をまた砂漠に戻すため黄濁色、その水は砂漠の中にオアシス都市をつくり人々の生活を育んでいます。

ある一日、車で砂漠走行にチャレンジャーしたとき、トヨタのランドクルーザーの運転手に「どうだ、日本の四駆はいいだろ」と胸を張ったところ、日く「ゴビならまだしも砂漠での四駆は命を落とします。どうやら乾燥砂漠での四駆あがきは鐘地獄のこと、又一っ勉強になりました。」

五 軒昂会行事

更
 ゴルフ 年間三回を二回に変更
 五月二十二日(月)
 十月二十二日(月)
 旅行 具体的な計画は未定

小日向 啓治

トルファン

特に漢の時代最盛期を誇ったシルクロードの歴史上の要所です。

海拔零メートル所によって五、十四世紀屯田兵の駐屯砂漠の商隊、東西物品の市場、酒場、通商税、取引税、さそ活気が、今は昔、強者どもが夢の後、風化した城跡「高昌古城」、「交河古城」の崩れた古レンガの遺跡に放牧羊の群が草を食べていました。

洋一匹二千五百円、牛四千円、口バ五千円、いががで、すが葡萄、ハミウリがとて美味でした。

ウルムチ

中央アジア横断鉄道の中国側最終都市、空路もウイグル自治区の中心です。ウイグル市内のバザールにはカザフスタン、キリギスタン、ロシア、モンゴルからの生活用品に交じってソニー、パナソニックのテレビ、サツゴロビールもありました。

市内から七十キロメートル離れた天山山脈の裾野まで足をのばした所に南山の西白揚木のカザフ族のバオ(モンゴルではゲル、遊牧民の移動式テント住宅)が点存する自然牧場を訪ねお願いしてバオの中に入れていただきました。

思ったよりこざっぱりしていて日本からの連れの客として歓迎していただきました。



その時頂いた手造りお菓子とバター茶の味は美味でした。外にでると六才位の女の子が自分の馬にまたがり草原を闊歩していた姿が残像として今でも目に浮かびます。

今回はタクラマカンの南側、河西回廊の都市ホータン、ヤルカンドの様子をお伝えします。

第九回 妻は戦友です

桜田忠男

軒昂会会員数 八十六名
 平成十一年度新会員九名
 平成十二年度新会員募集中

お知らせ

軒昂会ではリサイクル品の有効利用の一環として、不要になった物を出してもらい欲しい人に提供する、ことを始めています。

ぜひFAXや郵便でお寄せ下さい、その際売りたい価格や品物の程度を記入下さい。(写真があれば添付)

尚リストや写真は軒昂会のホームページに載せています。

お願い

平成十一年度軒昂会年会費二千円会計までお振り込み下さい。

今年度より会計は小泉氏が担当になります、よって振込み口座番号が変更になります。

第一勧業銀行 厚木支店
 店番号 三七一
 口座番号 二二三六九〇〇
 軒昂会 代表者 小泉 岩根

事務局

JR 瀬田駅前のレジンスホテルで平成八年四月二十日の朝を迎えました。前日は水口宿をスタート地点として歩行を開始して雨の中を石部宿、草津宿と二つの宿場を通過し、夕刻に瀬田の鷹橋目前の地点まで到達しました。

この日は前日の雨降りと打って変わった晴天で東海道五十三次道中の最後の締めくくりを行うのに相応しい天候でした。ホテルで朝食を済ませ最後の宿場となる大津の町並みが見えるはずの鷹橋の袂に急ぎました。

瀬田川の河原の土手は桜が満開でそのもどかな風景で、なぜか橋の向こう側には大津の町並みと其の背後の連坂の山並みが春麗に霞んで見えます。その連坂峠を越えれば山城國の山科の里です。あとは東山さえ越えればゴールの三条大橋は目と鼻の先だと見え、あとも少し歩くと頭の中に見えて見ました。

連坂峠の手前で後ろを振り返ると琵琶湖がみえました。間もなく名神高速道路の下を通過しますがそこに東京から四百八十六キロ地点を示す距離標識があります。五十三次の時代の辺りの坂道は荷馬車交通の難所であったので、約十二メートルの間を敷石で舗装を施してここを通る人たちに感謝されたのだと説明文があります。

勿論現在では道路の上に其の痕跡を少しもありませんが、私は道路左側の壁面に作られた模様がその敷石のパターンのように思えました。壁面には車石や大津絵の藤娘などがレリーフとしてはめ込まれています。

妻はこの日も私の前を連坂峠に向って元気良く歩いていました。結婚してからこのかた常に妻としてだけ見ていませんでしたが、東海道五十三次歩行を初めてからは、同じ目標に向かっただけで、む戦友のような気がしてきました。遅しさを感ずるようになってきました。

妻に対する見方のこのような変化は、これからの定年後の人生を乗り切るに際して良い方に働いてくれそうに思えます。コミュニケーションの取り方もお互いの役割を認識したものになるように思えます。

この原稿を書いている平成十二年一月現在、我々は五街道のうち既に東海道と甲州街道の完全歩行を達成して目下中山道歩行に挑戦中で武蔵の国吹上まで到達していますが、若し私一人だけの単独歩行であったらこんなに長い距離を歩き続けられなかったと思います。

あと一回の投稿で東海道五十三次は最終回になります。そして最終回のテーマは「目標達成」です。そのあとは甲州街道編を書くことと考えています。



編集後記

桜田様をお願いしています東海道五十三次紀行もあと1回となりました。続いて甲州街道編をお願いしようと考えています。